



Red Hat CodeReady Workspaces 2.9

リリースノートおよび既知の問題

Red Hat CodeReady Workspaces 2.9 のリリースノートおよび既知の問題

Red Hat CodeReady Workspaces 2.9 リリースノートおよび既知の問題

Red Hat CodeReady Workspaces 2.9 のリリースノートおよび既知の問題

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2021 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Release_Notes_and_Known_Issues.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

Information about new and noteworthy features as well as known issues in Red Hat CodeReady Workspaces 2.9.

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化	4
第1章 RED HAT CODEREADY WORKSPACES について	5
1.1. サポートされるデプロイメント環境	5
1.2. サポートポリシー	6
1.3. ECLIPSE CHE と RED HAT CODEREADY WORKSPACES の相違点	6
第2章 主な機能拡張	7
2.1. NEW DEVWORKSPACE CR エンジン製品アーキテクチャーの初期サポート	7
2.2. IMAGE PULLER を使用した起動時間の改善	7
2.3. DEVFILE 2.0 仕様のテクノロジープレビューのサポート	7
2.4. VS CODE YAML プラグインの 0.14.0 へのアップグレード	8
2.5. VS CODE ASCIIDOCTOR プラグインの非推奨	8
2.6. メモリ制限はプラグインおよび DEVFILE レベルで処理されます。	8
2.7. リソース制限および要求を CHE-MACHINE-EXEC プラグインおよび REMOTE-RUNTIME-INJECTOR プラグインに追加します。	8
2.8. CAMEL K の VS CODE 言語サポートを 0.0.24 にアップグレード	8
2.9. KUBERNETES IMAGE PULLER が、パスワードで保護されたレジストリーからイメージをプルできる	9
2.10. デフォルトでマルチルートモード	9
2.11. CODEREADY WORKSPACES が 'PER-USER' NAMESPACE ストラテジーに切り替えます。	9
2.12. ファクトリー URL からの GITLAB プライベートリポジトリーへのアクセス	9
2.13. CODEREADY WORKSPACES での RED HAT VS CODE 拡張機能のサポート TELEMETRY	10
2.14. DEVFILE で SSH を使用して GIT を使用する場合に SSH キーペアを提供するようにユーザーにプロンプトを出します。	10
2.15. ファクトリー URL での GITLAB パブリックリポジトリーのサポート	10
2.16. MERMAID ダイアグラムとフローチャートのサポート	10
2.17. ダッシュボードが専用のコンテナで実行されていること	10
2.18. VS CODE 拡張機能の更新	11
第3章 バグ修正	12
3.1. SONARLINT プラグインの修正	12
3.2. NODE.JS ワークスペースが正しく起動	12
3.3. JAVA プラグインの修正	12
3.4. SSH キーペアのサポート	12
3.5. MYSQL を使用した PHP LARAVEL での JWT 認証シークレットキーの問題を修正	12
3.6. 外部 KEYCLOAK 認証を使用する場合に CODEREADY WORKSPACES が適切に更新	12
第4章 既知の問題	14
4.1. IBM Z および IBM POWER SYSTEMS の GO ワークスペースでデバッグをアクティベートできない	14
4.2. 言語サーバーの機能は GO ワークスペースに事前にインストールされません。	14
4.3. プラグインインストール後に WORKSPACE が再読み込みされない	14
4.4. MKDIR POD タイムアウトによって生じるワークスペースの失敗についての誤解を招くエラーメッセージ	14
4.5. 同じタスクを複数回起動しても適切に動作しません。	15
4.6. PHP デバッグの実行に失敗する	15
4.7. GET-STARTED DEVFILES の誤ったソース場所がある	15
4.8. 外部 DEVFILE レジストリーが指定されている場合に GET STARTED DEVFILES の場所が適切に計算されない	15
4.9. IBM Z および IBM POWER SYSTEMS では、CRWCTL バイナリーはサポートされていません。	16
4.10. IBM Z および IBM POWER SYSTEMS でサポートされていない DEVFILE	16
4.11. IBM POWER SYSTEMS および IBM Z のテクノロジープレビュー機能のサポート	17
4.12. CAKEPHP スタックの WEB サーバーが適切に設定されていない	17
4.13. APACHE CAMEL 言語サーバーの実行に失敗しました。	17
4.14. DASHBOARD を使用してワークスペースを削除した後にワークスペースが依然として表示されます。	17

第5章 よくある質問 18

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[弊社 の CTO、Chris Wright のメッセージ](#)を参照してください。

第1章 RED HAT CODEREADY WORKSPACES について

Red Hat CodeReady Workspaces は、Web ベースの統合開発環境 (IDE) です。CodeReady Workspaces は OpenShift で実行し、コンテナベースの開発に適しています。

CodeReady Workspaces は以下を提供します。

- エンタープライズレベルのクラウド開発者ワークスペースサーバー
- ブラウザーベースの IDE
- 一般的なプログラミング言語、フレームワーク、および Red Hat テクノロジー用に使用できる開発者スタック。

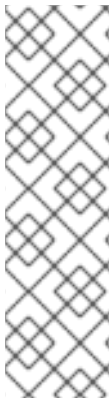
Red Hat CodeReady Workspaces 2.9 は Eclipse Che 7.30 をベースにしています。

1.1. サポートされるデプロイメント環境

このセクションでは、OpenShift Container Platform 4.6、3.11、および OpenShift Dedicated の CodeReady Workspaces 2.9 の可用性およびサポートされるインストール方法について説明します。

表1.1 OpenShift Container Platform および OpenShift Dedicated での CodeReady Workspaces 2.9 でサポートされるデプロイメント環境

プラットフォーム	アーキテクチャー	デプロイメント方法
OpenShift Container Platform 3.11	AMD64 および Intel 64 (x86_64)	crwctl
OpenShift Container Platform 4.6	AMD64 および Intel 64 (x86_64)	OperatorHub, crwctl
OpenShift Container Platform 4.6	IBM Z (s390x)	OperatorHub, crwctl
OpenShift Container Platform 4.6	IBM Power Systems (ppc64le)	OperatorHub, crwctl
OpenShift Container Platform 4.7	AMD64 および Intel 64 (x86_64)	OperatorHub, crwctl
OpenShift Container Platform 4.7	IBM Z (s390x)	OperatorHub, crwctl
OpenShift Container Platform 4.7	IBM Power Systems (ppc64le)	OperatorHub, crwctl
OpenShift Dedicated 4.7	AMD64 および Intel 64 (x86_64)	アドオン



注記

IBM Z(s390x)での OpenShift Container Platform への CodeReady Workspaces のデプロイのサポートは、現在テクノロジープレビュー機能としてのみ利用できます。テクノロジープレビュー機能は Red Hat の実稼働環境でのサービスレベルアグリーメント (SLA) ではサポートされていないため、Red Hat では実稼働環境での使用を推奨していません。Red Hat は実稼働環境でこれらを使用することを推奨していません。これらの機能は、近々発表予定の製品機能をリリースに先駆けてご提供することにより、お客様は機能性をテストし、開発プロセス中にフィードバックをお寄せいただくことができます。テクノロジープレビュー機能のサポートレベルの詳細は、「テクノロジープレビュー機能のサポート範囲」を参照してください。

関連情報

- [OpenShift 4.7 への Operator Hub からの CodeReady Workspaces のインストール](#)
- [CodeReady Workspaces の OpenShift Container Platform 3.11 へのインストール](#)。

1.2. サポートポリシー

Red Hat CodeReady Workspaces 2.9 では、Red Hat は製品のデプロイメント、設定、および使用をサポートします。

CodeReady Workspaces 2.9 は Chrome バージョン 90.0.4430.72 (公式ビルド) (64-bit)でテストされています。

関連情報

- [CodeReady Workspaces のライフサイクルおよびサポートポリシー](#)。

1.3. ECLIPSE CHE と RED HAT CODEREADY WORKSPACES の相違点

CodeReady Workspaces と Eclipse Che の主な相違点は次のとおりです。

- CodeReady Workspaces は RHEL8 で構築され、更新に時間がかかる Alpine ディストリビューションと比較して、最新のセキュリティー修正が含まれるようになりました。
- CodeReady Workspaces は、アップストリームプロジェクト Keycloak ではなく Red Hat Single Sign-On(RH-SSO)を使用します。
- CodeReady Workspaces では、Che と比較して、サポートされるプラグインのサブセットが少なくなります。CodeReady Workspaces は、EAP や Fuse などの他の Red Hat テクノロジーを操作するための devfile を提供します。
- CodeReady Workspaces は OpenShift Container Platform および OpenShift Dedicated でサポートされています。Eclipse Che は他の Kubernetes クラスタで実行できます。

Red Hat は、ライセンス、パッケージング、およびサポートを提供しています。そのため、CodeReady Workspaces はアップストリームの Eclipse Che プロジェクトよりも安定した製品とみなされます。

第2章 主な機能拡張

2.1. NEW DEVWORKSPACE CR エンジン製品アーキテクチャーの初期サポート

OpenShift CRD および Controller は、CodeReady Workspaces サーバーではなくワークスペースコンテナを処理します。この責任を進めて、適切なオーケストレーションが可能になります。ワークスペースを管理するには、カスタム CRD のサービスを使用する CodeReady Workspaces-server REST API ではなく、OpenShift ネイティブツールおよび API を利用できます。

これにより、以下が可能になります。

- ETCD キー値ストアを使用した RBAC および永続性を使用した OpenShift 認証への委任。
- OpenShift API を使用した CodeReady Workspaces ワークスペースのプロビジョニングを容易にする
- ユーザーの地理的な位置に基づくワークスペースの設定など、より高度なワークスペースの制御、またはワークスペースのパフォーマンスが低下するプラグインの自動無効化など。

関連情報

- [CRW-975](#)

2.2. IMAGE PULLER を使用した起動時間の改善

Image Puller は、OpenShift クラスターのすべてのノードですべての CodeReady Workspaces イメージを事前にダウンロードできます。**operator-metadata** イメージは事前にプルする必要がないため、サポートされていません。

関連情報

- [CRW-1594](#)

2.3. DEVFILE 2.0 仕様のテクノロジープレビューのサポート

Devfile は、反復可能かつ共有可能な方法で開発環境の定義を可能にします。[この仕様は、odo](#) などのより多くのツールとして進化し、その使用の拡張を続けます。Devfile v2.x の CodeReady Workspaces のサポートを徐々に導入し、以下を可能にします。

- ツール間の相互運用性の増強
- ワークスペースの定義のより簡単なエクスペリエンス
- Devfile v2.x では、IDE プラグインを使用した DevWorkspace エンジンによる新しい実装の可能性はコアコンポーネントではなくなり、代わりに外部ファイルへの参照が含まれ、管理されません。
- CodeReady Workspaces 2.9 では、Che-Theia プラグインは devfile バージョン 2.0 ベースのワークスペースに含めることはできません。この機能は、Devfile v2.1 仕様のサポートを含む後続のリリースに追加されます。
- devfile バージョン 1 をベースとする Workspace は完全にサポートされます。

- Devfile 2.0 のサポートはデフォルトで無効にされています。このサポートを有効にするには、CheCluster カスタムリソースに **spec.devWorkspace.enable: true** を設定します。
- CodeReady Workspaces 2.9 では、devfile 2.0 サポートを有効にするための新規コンテナが必要です。
 - [devworkspace-controller-rhel8:2.8](#)
 - [devworkspace-rhel8:2.8](#)

関連情報

- [CRW-1671](#)

2.4. VS CODE YAML プラグインの 0.14.0 へのアップグレード

VS Code YAML プラグインがバージョン 0.14.0 に更新されました。

関連情報

- [CRW-1698](#)

2.5. VS CODE ASCIIDOCTOR プラグインの非推奨

VS Code AsciiDoctor プラグインは非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。

関連情報

- [CRW-1701](#)

2.6. メモリー制限はプラグインおよび DEVFILE レベルで処理されます。

メモリー制限はプラグインおよび devfile レベルで処理されます。**globalMemory** 制限は、devfile レジストリー内の **meta.yaml** ファイルから削除されました。

関連情報

- [CRW-1703](#)

2.7. リソース制限および要求を CHE-MACHINE-EXEC プラグインおよび REMOTE-RUNTIME-INJECTOR プラグインに追加します。

che-machine-exec プラグインおよび **remote-runtime-injector** プラグインには、リソース制限が定義されている。

関連情報

- [CRW-1764](#)

2.8. CAMEL K の VS CODE 言語サポートを 0.0.24 にアップグレード

Camel K の VS Code 言語のサポートが、バージョン 0.0.24 に更新されました。

関連情報

- [CRW-1784](#)

2.9. KUBERNETES IMAGE PULLER が、パスワードで保護されたレジストリーからイメージをプルできる

ユーザーは、プライベートレジストリーからイメージをプルできます。

関連情報

- [CRW-1804](#)

2.10. デフォルトでマルチルートモード

VS Code 拡張機能は Multi-root モードで実行する必要があります。CodeReady Workspaces は、すべての新規ワークスペースに Multi-root モードを設定します。

以前のバージョンで作成されたワークスペースで Multi-root モードを有効にするには、devfile に **multiRoot** パラメーターを設定します。

```
attributes:  
  multiRoot: 'on'
```

関連情報

- [CRW-1807](#)

2.11. CODEREADY WORKSPACES が'PER-USER' NAMESPACE ストラテジーに切り替えます。

ユーザーごとのストラテジー以外のすべての namespace ストラテジーは非推奨となり、今後のリリースではサポートされない予定です。

この変更により、以下のようになります。

- セキュリティーが改善されます。
- 管理者は、namespace クォータを使用してユーザーに割り当てられるリソースをより適切に制御できるようにします。
- **per-workspace** ストラテジーと同様に、Kubernetes Secret を使用して機密情報を複製する必要がなくなります。

関連情報

- [CRW-1808](#)

2.12. ファクトリー URL からの GITLAB プライベートルポジトリーへのアクセス

ファクトリー URL ポインターを使用してプライベート GitLab リポジトリにアクセスして認証するには、以下を実行します。

1. 個人アクセストークンをシークレットとして CodeReady Workspaces ユーザー namespace に保存します。
2. ファクトリー URL ポインターを使用して、プライベート GitLab リポジトリにアクセスして認証します。

関連情報

- [CRW-1811](#)

2.13. CODEREADY WORKSPACES での RED HAT VS CODE 拡張機能のサポート TELEMETRY

CodeReady Workspaces はオプションで、これをサポートする拡張機能から Red Hat Telemetry データを収集します。

関連情報

- [CRW-1818](#)

2.14. DEVFILE で SSH を使用して GIT を使用する場合に SSH キーペアを提供するようにユーザーにプロンプトを出します。

devfile が SSH で Git を使用してサンプルプロジェクトのクローンを作成するワークスペースを起動すると、CodeReady Workspaces は SSH キーを指定するよう要求します。

関連情報

- [CRW-1820](#)

2.15. ファクトリー URL での GITLAB パブリックリポジトリのサポート

CodeReady Workspaces は、GitLab ベースのファクトリー URL を使用したワークスペースの作成をサポートします。

関連情報

- [CRW-1822](#)

2.16. MERMAID ダイアグラムとフローチャートのサポート

Biemer Markdown プラグインを使用すると、ユーザーは Che-Theia Markdown プレビューを使用して Mermaid ダイアグラムと flowchart グラフを直接レンダリングできます。

関連情報

- [CRW-1845](#)

2.17. ダッシュボードが専用のコンテナで実行されていること

ダッシュボードは、CodeReady Workspaces サーバーコンテナではなく、専用のコンテナで実行されます。

関連情報

- [CRW-1865](#)

2.18. VS CODE 拡張機能の更新

- cobol-language-support to v0.19.0
- hlasm-language-support to v0.13.0
- COBOL 制御フロー(v0.4.0)へ追加してください。

関連情報

- [CRW-1964](#)

第3章 バグ修正

3.1. SONARLINT プラグインの修正

Sonarlint プラグインは完全に機能しており、期待どおりに機能します。

関連情報

- [CRW-1604](#)

3.2. NODE.JS ワークスペースが正しく起動

CodeReady Workspaces 2.8 Node.js ワークスペースは、最新バージョンへの移行後に起動に失敗しなくなりました。

関連情報

- [CRW-1773](#)

3.3. JAVA プラグインの修正

すべての Java プラグイン (Java11、Java8、および Java) は想定どおりに初期化されます。

関連情報

- [CRW-1793](#)

3.4. SSH キーペアのサポート

CodeReady Workspaces は、パスワードで保護された SSH キーをアップロードする機能をサポートします。ワークスペースが起動すると、既存の暗号化された SSH キーは SSH エージェントに登録されます。

関連情報

- [CRW-1812](#)

3.5. MYSQL を使用した PHP LARAVEL での JWT 認証シークレットキーの問題を修正

このコマンドは、MySQL の Laravel を使用した PHP Laravel の新しい JWT 認証シークレットキーを生成するようになりました。CodeReady Workspaces は JWT 認証の秘密鍵を適切に生成します。

関連情報

- [CRW-1814](#)

3.6. 外部 KEYCLOAK 認証を使用する場合に CODEREADY WORKSPACES が適切に更新

CodeReady Workspaces は、外部 keycloak 認証の使用時に更新に失敗するようになりました。

関連情報

- [CRW-1816](#)

第4章 既知の問題

4.1. IBM Z および IBM POWER SYSTEMS の GO ワークスペースでデバッグをアクティベートできない

Go プログラミング言語のデバッガーは、IBM Z および IBM Power Systems アーキテクチャーには使用できません。そのため、CodeReady Workspaces 2.9 の Go ワークスペースでデバッグ機能をアクティブにすることはできません。この機能をアクティベートしようとすると、**Failed to continue** エラーメッセージが表示されます。

回避策

- IBM Z および IBM Power Systems アーキテクチャーでは、delve デバッガーは利用できません。

関連情報

- [CRW-1349](#)

4.2. 言語サーバーの機能は GO ワークスペースに事前にインストールされません。

デフォルトの Go devfile を使用して作成されるワークスペースでは、追加のツールがないために一部の機能が失敗します。たとえば、自動補完は利用できません。

手順

1. 無制限の環境で CodeReady Workspaces インスタンスを実行します。
2. IDE のポップアップウィンドウの **Install** ボタンを使用して、必要なモジュールをインストールします。

関連情報

- [CRW-1521](#)

4.3. プラグインインストール後に WORKSPACE が再読み込みされない

プラグインをインストールした後に、ここをクリックして変更を適用し、ワークスペースを再起動するとワークスペースのリロードに失敗します。

回避策

- ワークスペースを手動で起動します。

関連情報

- [CRW-1761](#)

4.4. MKDIR POD タイムアウトによって生じるワークスペースの失敗についての誤解を招くエラーメッセージ

OpenShift Container Platform クラスターリソースがないことによって生じる障害は、誤解を招くエラーメッセージが付随します。

Your session has expired. Please, log in to CodeReady Workspaces again to get access to your OpenShift account.

このメッセージは今後のリリースで修正される予定です。

回避策

- 追加のリソースを OpenShift Container Platform クラスターに提供します。

関連情報

- [CRW-1767](#)

4.5. 同じタスクを複数回起動しても適切に動作しません。

My ワークスペースからタスクを複数回起動すると、タスクが適切に終了していません。IDE は、spinning-wheel アイコンを「として」マーカーの代わりとして表示します。したがって、後続のタスクの実行を開始できません。

回避策

- My workspace 環境でタスクを1度実行します。

関連情報

- [CRW-1782](#)

4.6. PHP デバッグの実行に失敗する

CodeReady Workspaces は PHP デバッグの実行に失敗します。PHP はテクノロジープレビュー機能です。

関連情報

- [CRW-1830](#)

4.7. GET-STARTED DEVFILES の誤ったソース場所がある

Get-Started devfiles には、マルチホストから単一ホストの公開ストラテジーへの切り替え後に、誤ったソース場所があります。

関連情報

- [CRW-1851](#)

4.8. 外部 DEVFILE レジストリーが指定されている場合に GET STARTED DEVFILES の場所が適切に計算されない

devfile レジストリーをビルドする場合、ビルドプロセスは devfile を更新し、アーティファクトアーカイブのソースの場所を設定します。複数のレジストリーを指定する場合、ビルドプロセスは devfile のアーカイブソースの場所を適切に更新しません。

例4.1 複数のレジストリーを使用したデプロイメント

Developer Sandbox は、コミュニティレジストリーおよび CodeReady Workspaces レジストリーを有効にします。

回避策

- 1つの一意のレジストリーを指定してレジストリーをビルドします。

関連情報

- [CRW-1853](#)

4.9. IBM Z および IBM POWER SYSTEMS では、CRWCTL バイナリーはサポートされていません。

`crwctl` バイナリーは、IBM Z および IBM Power Systems では実行されません。これらのプラットフォームは、CodeReady Workspaces のデプロイ先のターゲットとして一意に識別されます。

回避策

- サポートされているプラットフォームから `crwctl` を実行します。

関連情報

- [CRW-1864](#)

4.10. IBM Z および IBM POWER SYSTEMS でサポートされていない DEVFILE

これらの devfile は、IBM Z および IBM Power Systems ではサポートされません。

- EAP (OpenJDK 8 の場合)
- .Net
- Fuse

回避策

- IBM Z および IBM Power Systems では、サポート対象外の言語を使用しないでください。

関連情報

- [CRW-1896](#)

4.11. IBM POWER SYSTEMS および IBM Z のテクノロジープレビュー機能のサポート

IBM Power Systems および IBM Z での OpenShift Container Platform への CodeReady Workspaces の [デプロイのサポート](#)は、[テクノロジープレビューとして利用できます](#)。テクノロジープレビュー機能は Red Hat の実稼働環境でのサービスレベルアグリーメント (SLA) ではサポートされていないため、Red Hat では実稼働環境での使用を推奨していません。Red Hat は、実稼働環境での使用は提案しません。これらの機能は、近々発表予定の製品機能をリリースに先駆けてご提供することにより、お客様は機能性をテストし、開発プロセス中にフィードバックをお寄せいただくことができます。

関連情報

- [CRW-1897](#)

4.12. CAKEPHP スタックの WEB サーバーが適切に設定されていない

CakePHP スタックに基づくワークスペースでは、[Apache Web Server の設定タスク](#)を実行して、パーミッションが拒否された状態で失敗します。preview サーバーは、アプリケーションではなくデフォルトのテストページを表示します。

関連情報

- [CRW-1950](#)

4.13. APACHE CAMEL 言語サーバーの実行に失敗しました。

Apache Camel プラグインのアクティベーションはメッセージを出して失敗します。

```
Activating extension `Tooling for Apache Camel K by Red Hat` failed: Dependent extension `redhat.vscode-commons` is not installed.
```

関連情報

- [CRW-1951](#)

4.14. DASHBOARD を使用してワークスペースを削除した後にワークスペースが依然として表示されます。

Dashboard を使用してワークスペースを削除した後にワークスペースが依然として表示されます。

回避策

ブラウザで Dashboard を再読み込みします。ダッシュボードには削除されたワークスペースが表示されなくなりました。

関連情報

- [CRW-1982](#)

第5章 よくある質問

CodeReady Workspaces から OpenShift クラスターにアプリケーションをデプロイできますか？

はい、利用できます。ユーザーは **oc login** を使用して実行中のワークスペースから OpenShift クラスターにログインする必要があります。

最適なパフォーマンスを得るには、CodeReady Workspaces で使用される永続ボリュームに推奨されるストレージは何ですか？

ブロックストレージを使用します。

複数の CodeReady Workspaces インスタンスを同じクラスターにデプロイできますか？

推奨されません。この機能は、今後のリリースで削除される可能性があります。

CodeReady Workspaces をオフライン（つまりインターネットから切断）をインストールすることは可能ですか？

はい、利用できます。「[制限された環境での CodeReady Workspaces のインストール](#)」を参照してください。

CodeReady Workspaces でデフォルト以外の証明書を使用できますか？

はい、自己署名証明書または公開証明書を使用できます。「[OpenShift Container Platform 3.11 での CodeReady Workspaces のインストール](#)」を参照してください。

複数のワークスペースを同時に実行できますか？

はい、利用できます。「[ユーザーが実行できるワークスペース数の設定](#)」を参照してください。

IBM Power Systems に実装された特定の変更は何ですか？

Pod を実行するのに十分な RAM を割り当てるために、一部のプラグインのメモリー制限が引き上げられました。

表5.1 IBM Power System と他のアーキテクチャー間のメモリー制限の相違点の例

プラグイン	IBM Power System	その他のアーキテクチャー
Che-Theia エディター	2G	512M
OpenShift コネクター	2.5G	1.5G